

# 金剛院だより 特別号

## ごぶんしん 総本山「長谷寺」本尊の御分身を迎えて

### ●ご本山と同じ仏様 を造立しました

神亀四年(727)に徳道上人が真言宗豊山派の総本山である大和・長谷寺に「十一面観世音菩薩」を御本尊としてお祀りになられてから1300年近くを迎えます。国の重要文化財であり、12寸もある観音様は「長谷型観音」と呼ばれ、縁結びを始め数多くの霊験とともに観音霊場の御本尊として多くの信仰を集めてきました。

その長谷寺の末寺である金剛院は平成34年に開創500年を迎えます。この歴史的な節目にあたって金剛院では改めて弘法大師の教えを広め、観音信仰の御徳をさらに多くの方々にお伝えするひとつの形として、平成10年渡邊雅文仏師にお願いし、この長谷寺御本尊と同じ「十一面観世音菩薩」を模刻造立しました。

その後、金剛院ではこの観音様を本堂にお祀りし、約10年間にわたって観音様の大切なお経である「真言」を百万回唱えるための「前行」の作法を修し終わりました。

観音様の造立は、金剛院歴代先師尊霊と檀信徒一切精霊の報恩謝徳を祈りながら、この観音様を地域の観音信仰の基としたいという



思いで発願したのですが、10という年月が経ってみると、檀信徒の皆様から「せっかくだから、ぜひ御本山の長谷寺でこの観音様の開眼供養を」という声があがるようになっていたのです。

そこで今年4月、長谷寺にこうした金剛院と檀信徒の思いをお伝えしたところ、本山において正式に開眼法要を賜ることになりました。これは歴史的にもたいへん珍しいことで近世においては例がありません。

### ●阿弥陀如来の「四十八の誓願」に因む48日間の御供養

長谷寺には去る7月29日に観音様をお届けに登嶺しました。

この日は旧暦の6月18日にあたり、観音様の縁日と重なります。そして檀信徒と共に観音様のお迎

えする日は、長谷寺、金剛院双方の事情で9月14日に決まりました。この間の日数を数えてみるとちょうど48日間です。

ところで「十一面観世音菩薩」の頂上には、化仏(けぶつ)という阿弥陀如来像がみられます。阿弥陀如来は厳しい修行の末に悟りを得て本当の仏様となりました。そんな「悟りの表情(仏面)」を示しているのです。仏の象徴として観音様の頂上にあるのです。

そして観音様を長谷寺にお預けしてからお迎えにあがるまでは48日間。この「48」という日数は阿弥陀如来が仏になるために立てた「四十八の誓願」に因んだものになり、この観音様がもつ不思議なご縁とお力を感じることとなりました。

こうして金剛院の観音様は長谷寺の御本尊前で48日間、毎日ご供養を修して頂き、9月14日の開眼特別法要では、真言宗豊山派長谷寺化主である小野塚幾澄管長猊下自ら法要の大導師をおつとめいただきました。

発願・造立から10年余り。こうして金剛院の観音様は長谷寺御本尊の「御分身」として正式に御徳を賜ることができたのです。

(裏面へ続く)



### ●豊かな山々に囲まれた 本堂にお経が響き渡りました

今回の開眼特別法要には田島徳司総代・責任役員をはじめとする檀信徒の皆様が総勢 45 名参列しました。

朝 7時半すぎの新幹線で東京を出発、名古屋からバスに乗り換えて一路長谷寺へ。お昼すぎに長谷寺に着きお迎えのお坊さんの案内で 399 段の「登廊 (のぼりろう)」を登り切って本堂に入ると、そこには大きな御本尊様が。そしてその足元に、真新しいお厨子におさめられた金剛院の観音様がいらっしゃいました。

厳しい暑さの名残はあるものの、涼しい山風に乗って聴こえてくる蝉の声に耳を澄ませながらしばらくすると、法要が始まりました。20 名近くの読経する僧侶の声が本堂に響き渡ります。

そして最後に御本尊と観音様の御前でお焼香です。48 日間を長谷寺で過ごし、御本尊の元を離れて御分身として金剛院に戻る観音様ふたつの像を同時に拝むことができるのは最初で最後のことです。

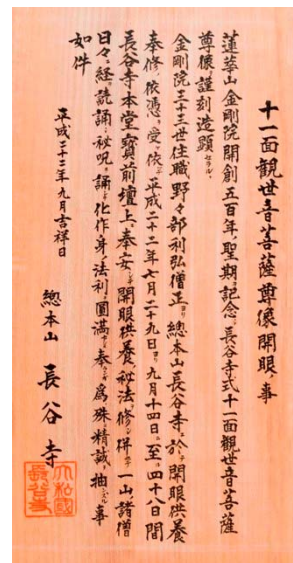
まるで親元を離れる子どもを見守るような、御本尊の慈悲のまなざしは、檀信徒さんの心に大きな印象を残されたことでしょう。

### ●観音浄土の世界観に触れた 開眼法要

法要後にある一人の檀信徒さんから「私の逝くところできました」という言葉をいただきました。目に涙を浮かべ、たいへん感

動されたご様子でした。ご先祖様も自分も一切が守られている、ありがたい「観音浄土」の世界観を感じられたのでしょうか。

そして法要後には、お茶の御接待があり長年にわたって長谷寺をお参りしている檀信徒に、小野塚管長猊下から表彰状と袈裟が直接授与されました。管長猊下がこうした席に出られるというのも異例なことです。これも観音様のご威徳でしょうか。「歴史的な瞬間に立ち会えた幸せ。檀家にとってこんなに名誉で嬉しいことはありません。本当に感動しました」という田島総代の言葉に代表されるように、一同には感謝の念があふれ、素晴らしい 1 日となりました。



観音様が納められた箱書きには開眼が確かに総本山長谷寺で行われたことと、観音様が本尊の分身であることが記され、長谷寺の正式印が押捺されています。



★いろいろな方との「ご縁」と「いま、ここ」というタイミングがあって、このたびの「御分身・開眼法要」が行われたと思います。それは偶然のことではなく、一つ一つの積み重ねの結果の中でおこりえた「必然」だったのかもしれませんが。ご縁を頂いた方々、本当にありがとうございました。(住職記)